

あいおい損保

ハートフルリサイクル

循環型社会の実現に向けて

あいおい損保のリサイクル部品使用特約付自動車保険「ハートフルリサイクル」が環境問題への関心の高まりとともに代理店、顧客からの支持を集めている。10月からは「ハートフルリサイクル」が地球環境にやさしい理由を分かりやすく顧客に伝えるためにパンフレットを全面リニューアルし、社員、代理店への周知徹底を行うことで販売態勢をより強固にした。問い合わせ件数も伸びており、「環境貢献と保険料の節減を実現することが可能な商品」として今後の動向が注目されている。

同社のe.o.自動車保険「ハートフルリサイクル」は、契約車両が車両事故を起こした時に修理する際に、修理する部品を契約時に決

めることで、車両保険の保険料を5%割引する（過した車とし、リサイクル部品の安定的な提供を確保している。対象となる部品は、外板（ボルトオンパーツ）に限り、フロントドア、リア

フォーサイトマネジメント キャプティブセミナー開催 新興ドミサイルのマイクロネシア、ドバイ紹介



浜田氏



タイタノ氏



マイヤーズ氏



トーヴェル氏

フォーサイトマネジメント(株)（東京都千代田区、浜田健一郎代表取締役社長）は、11月11日、青山タイヤモンドホール（東京都港区）でキャプティブセミナー2008を開催した。

冒頭、同社の浜田氏は「金融危機を背景に保険は難しい時代に入り、キャプティブのニーズも高まっており実際の動きも出てくる」と説明。日本に近い新興ドミサイル

（キャプティブ設立地）として注目されているマイクロネシア、急成長し金融にも注力するドバイを紹介するほか、リスクの先進国である米国の中心に活躍し、多くの日系企業を顧客に抱えるピーチヤー・カールソン社による講演を組み合わせ、キャプティブの最新情報を紹介した。

引き続き浜田氏は「キャプティブの導入」と題してキャプティブの利益構造の仕組みを紹介。エクスオプロスカバーの再々保険（一定の額以上保険金が支払われない）の活用による保険料の低減や、事故減少による損害率低下などにより、費用全体を下げることで、自社の利益を生み出すことができると説明した。さらにドミサイルの実務として、本社とキャプティブ（通常ペーパーカンパニー）の関係、コンサルティンクを行つコンサルタントや会計事務所を行つキャプティブ・マネージャー、会社設立、株主総会などの手続きを行う法律事務所、会計監査を行う会計事務所、アクチュアリーや現地当局などについて

車、自家用の小型・軽四輪（貨物車）の一定期間経過した車とし、リサイクル部品の安定的な提供を確保している。対象となる部品は、外板（ボルトオンパーツ）に限り、フロントドア、リア

次にマイクロネシア連邦のキャプティブ保険制度についてマイクロネシア・レジストレーション・ドバイ・サウス社（MRA）のタイタノ中村若菜取締役副社長は、親目的で安定した良主義議者である同連邦の紹介、同連邦での日本企業がキャプティブ保険制度を活用する際のメリットや特徴、法律と規定について語った。

タイタノ氏によれば、同社は設立の2005年からマイクロネシア連邦と30年間の契約を結んでおり、継続維持可能な収入増加をもたらす日本企業誘致を主たる仕事としている。法人登記、税制、

リスク先進国米、バミ

ア、トランクパネル、フロントバンパーカバ、リアバンパーカバ、バックドア、リアフニッシャー、メカ関係、クーラーコンデンサ、ランプ類は、テールランプとヘッドランプの部品に限られる。

もう一つの特徴は、リサイクル部品を使用した結果、エネルギー使用抑制に大きく貢献ができるということだ。早稲田大学が日本自動車リサイクル部品販売団体協議会との共同研究によって示した国産車（排気量1500cc・1999年式クラス）の乗用車）の数値を参考にすると、ミラーをリサイクル部品で修理すれば、4.5%、ヘッドランプは10.5%、リアドアであれば、9.5%ものCO2削減となる。杉の木一本は年間約14%の

CO2を吸収すると言われており、フロントドアのCO2削減効果は、杉の木約7本分に相当する。

また、自動車リサイクル部品は環境にやさしい製品であり、物品の調達に関して、環境負荷の低減に資する製品を優先的に選んでいくことを政府が定めた「グリーン購入法」の対象品目にも指定されている。

同社は、廃棄自動車の適正な処分、リサイクル部品の製品化を目的とし、循環型社会の構築を

目指した「全損車両ネットオークションシステム」や、自動車の「壊れにやさしい」「修理のしやすさ」を評価し車両保険料を割り引く「ドーン！とおまかせ」など地球環境に貢献する商品を開発することにも、「エコ安全ドライブ」を取り入れた「無事故推進運動」を展開するなど本業を通じた環境配慮への取り組みを積極的に行っている。

今後も「ハートフルリサイクル」に代表されるような環境に配慮した商品を開発していくこと

のほか制度確立など、「後発の利を最大限に生かす」「日系企業にとって劣的な制度の整備を進めていること」。

同連邦のキャプティブ保険制度の特徴やメリツとして「日系企業を意図した制度の低く抑えらるなどインセンティブの低いオレシヨコストの低い低額な保険料の投資に關しての柔軟性の親会社への貸付に關しての柔軟性

の活用が可能とされていること、現地在住取締役や役員が不要であること、キャプティブ設立申請料が500米ドル、キャプティブライセンス料が500米ドル、保険料は保険料の0.05%、最高保険料は2万米ドルなど低く抑えられた手数料などについて紹介した。

続いてピーチャー・カールソン社のエグゼクティブマネージャングレックターを務めるグレック・マイヤース氏が「米国内とハミュータでキャプティブをいかに有効活用するか」をテーマに講演した。

また米国内サイクルとして、主導的な立場にあるバーモント州、ハワイ州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

州、アリゾナ州、ネバダ

大石 正明 著 B5判/341頁
根拠のない常識と新しい保険会社
定価5,775円(税込) 送料450円 (平成17年6月刊)
お申し込みはFAXで FAX03(3865)1431
保険毎日新聞社